



# 日本植物病理学会ニュース 第42号

(2008年5月)

## 【今後の学会活動予定】

### 1. 平成20年度植物感染生理談話会

日時：平成20年8月7日～9日

場所：大子温泉郷 余暇活用センター「やみぞ」

〒319-3552 茨城県久慈郡大子町矢田524-2

TEL: 0295-72-1511 FAX: 0295-72-1514

<http://www.yamizo.com>

テーマ：「ゲノム情報を活用した植物感染生理学の展望」

講演予定内容；

- ・秋光和也（香川大農）：分子植物—病原体相互反応研究の動向
- ・西村麻里江（生物研）：真核微生物ゲノム情報を活用したイネいもち病菌感染シグナル伝達経路の解析
- ・古谷綾子（生物研）：ゲノム情報を利用したイネ白葉枯病菌の植物感染機構の解析—病原性に関するタイプIII エフェクターの同定—
- ・須賀晴久（岐阜大生命科学総合研究支援センター）：ゲノムの全塩基配列を利用したムギ類赤かび病菌の研究
- ・河内 宏（生物研）：モデル植物を用いた植物—微生物共生研究の最近の進歩
- ・長谷 修（山形大農）：マイクロトマトのゲノム情報を活用した *Pythium oligandrum* による誘導抵抗性の分子機構解明
- ・高辻博志（生物研）：誘導抵抗性に関わる情報伝達の分子機構の解明とその利用
- ・福岡修一（生物研）：イネいもち病圃場抵抗性に関する QTL の検出とその遺伝子単離
- ・宮田伸一（果樹研）：カンキツグリーンング病ゲノムの高度変異領域の系統間比較から見た病原力変異や分布地域との関連性
- ・田村勝徳（東京大分子細胞生物研）：アブラナ科野菜黒腐病菌の感染戦略
- ・一瀬勇規（岡山大農）：*Pseudomonas syringae* の MAMPs と植物応答

- ・望月知史（大阪府大大学院）：メロンえそ斑点ウイルスによるえそ症状の発病機構について
- ・山次康幸（東京大大学院）：タバコモザイクウイルスの感染と宿主因子
- ・曾根輝雄（北海道大大学院）：イネいもち病菌の非病原性遺伝子 *AVR-Pia* のクローニングと解析
- ・竹本大吾（名古屋大大学院）：牧草共生糸状菌の感染確立機構
- ・中屋敷均（神戸大大学院）：RNAi による病原糸状菌の機能ゲノミクス

参加申込締切：平成20年6月20日（金）

連絡先：農業環境技術研究所 生物生態機能研究領域

石井英夫

〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3

TEL & FAX: 029-838-8307

E-mail: [hideo@niaes.affrc.go.jp](mailto:hideo@niaes.affrc.go.jp)

### 2. 第24回土壌伝染病談話会

日時：平成20年9月10日（水）～12日（金）

場所：高知大学農学部5-1教室

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

TEL: 088-864-5218

テーマ：病原菌の同定から防除までの基礎的知見と新知見  
講演予定内容等

- ・堀江博道（東京大大学院）：植物病害診断の意義，そして「植物医師」の育成と連携に向けて
- ・土屋健一（九州大大学院）：セパシア菌：農業環境における多様性と機能を探る
- ・有江 力（東京農工大大学院）：*Fusarium oxysporum* における病原性の多様性
- ・柘植尚志（名古屋大大学院）：*Fusarium oxysporum* の病原性
- ・藤原俊六郎（神奈川県農技セ）：堆肥の熟成過程および土壌中における分解と微生物

- ・田中壮太（高知大大学院）：土壌消毒による土壌環境・微生物性への影響
- ・百町満朗（岐阜大応用生物科学部）：植物生育促進菌類による生物防除のメカニズム研究
- ・竹原利明（近畿中国四国農研セ）：生物的土壌消毒による土壌病害の防除

現地見学会：高知県野菜生産地の現地見学会

- ・矢野和孝（高知県農技セ）：高知県のナス科野菜に発生する青枯病とその防除
- ・杉田 亘（宮崎県総合農試）：ピーマンにおける青枯病抵抗性 DNA マーカーの開発
- ・佐古 勇（鳥取県大山農改）：鳥取県の特産野菜に発生する土壌病害と防除対策
- ・谷名光治（岡山県農総セ）：岡山県の雨よけ夏秋トマトにおけるトマトかいよう病の伝染環解明への取り組み

参加申込締切：平成 20 年 8 月 1 日（金）

連絡先：高知大学農学部 第 24 回土壌伝染病談話会事務局  
 曳地康史，または木場章範  
 〒 783-8502 高知県南国市物部乙 200  
 Tel: 088-864-5218, Fax: 088-864-5200  
 E-mail: yhikichi@cc.kochi-u.ac.jp

### 3. 第 5 回教育プログラム

日 時：平成 20 年 9 月 8 日（月）～12 日（金）

場 所：鹿児島大学農学部

受講費用：本学会会員；30,000 円（学生 15,000 円）＋  
 懇親会費 4,000 円（予定）  
 非会員；40,000 円（学生 20,000 円）＋  
 懇親会費 4,000 円（予定）

プログラム内容は本誌綴じ込みを参照

参加申込：受講希望理由を明記の上，6 月 30 日（月）  
 13:00 以降

連絡先：鹿児島大学農学部病害虫制御学講座 岩井 久  
 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24  
 Tel & Fax: 099-285-8681  
 E-mail: topcrop@agri.kagoshima-u.ac.jp

#### 【本学会活動状況】

1. 新たに 5 名の技術士（農業部門・植物保護）が誕生  
 平成 20 年 3 月 7 日に平成 19 年度技術士第二次試験合格者が発表されました。新しく 5 名の方が技術士（農業部門・植物保護）になりました。

市川和規さんは山梨県果樹試験場に所属され，日本植物病理学会会員です。井手洋一さんは佐賀県果樹試験場に所属

され，日本植物病理学会会員です。森 充隆さんは香川県農業試験場病害虫防除所に所属され，日本植物病理学会会員です。濱本 宏さんは東京大学大学院農学生命科学研究科植物医科学研究室に所属され，日本植物病理学会会員です。田中敏章さんは広島県西部農業技術指導所に所属しておられます。

技術士（農業部門・植物保護）の合格発表は，今回で 4 回目（平成 16～19 年度）です。昨年までは都道府県，民間企業，国の独立行政法人からの合格者でしたが，今回，新たに東京大学の濱本 宏さんが合格されました。これからも多くの職場から受験されることをお願い致します。

平成 20 年度の技術士第一次試験は平成 20 年 10 月 13 日に行われます。また，技術士第二次試験は平成 20 年 8 月 3 日に行われます。詳細は日本技術士会のホームページをご覧ください。

日本植物病理学会，日本応用動物昆虫学会，日本農業学会，日本雑草学会，植物化学調節学会は，技術士（農業部門・植物保護）の社会での活躍について，積極的に取り組んでいます。当面の目標は 100 名の技術士（農業部門・植物保護）の誕生です。平成 20 年度も多くの技術士（農業部門・植物保護）の誕生を期待しています。

（技術士対応委員会）

#### 【共催のその他】

##### 1. アメリカ植物病理学会 100 周年記念大会

日 時：平成 20 年 7 月 26 日～30 日

場 所：Minneapolis, MN, USA

<http://meeting.apsnet.org/>

##### 2. 日中菌学フォーラム 長春 2008

日 時：平成 20 年 7 月 28 日～8 月 5 日

場 所：吉林省長春市吉林大学

<http://www.junwusuo.com/>

##### 3. 第 4 回国際 *Rhizoctonia* シンポジウム

日 時：平成 20 年 8 月 20 日～22 日

場 所：Berlin, Germany

<http://rhizoctonia.org/>

##### 4. 第 3 回国際 *Phytophthora/Pythium* ワークショップ

日 時：平成 20 年 8 月 23 日～24 日

場 所：Torino, Italy

[http://www.aphis.usda.gov/plant\\_health/identification/phytophthora/index.shtml](http://www.aphis.usda.gov/plant_health/identification/phytophthora/index.shtml)

## 5. 第9回国際植物病理学会 ICPP2008

日 時：平成20年8月24日～28日

場 所：Torino, Italy

<http://www.icpp2008.org/>6. 第10回国際 *Fusarium* ワークショップ

日 時：平成20年8月30日～9月2日

場 所：Alghero, Sardinia, Italy

[http://www.cdl.umn.edu/scab/10th\\_fhb\\_wkshp.htm](http://www.cdl.umn.edu/scab/10th_fhb_wkshp.htm)

## 7. 第7回国際菌媒介性ウイルスワーキンググループ

日 時：平成20年8月31日～9月4日

場 所：Quedlinburg, Germany

<http://www.iwgpvfv2008.bafz.de/>

上記のような様々な会合が予定されております。詳細は本学会ホームページあるいは上記のサイトをご参照下さい。

## 【関連学会報告】

## (1) 日本農学会

平成20年度（第79回）日本農学大会が例年のごとく、4月5日（木）に東京大学山上会館にて、開催された。まず加盟50学会からなる日本農学会を代表して鈴木昭憲会長から、読売新聞社を代表して小出重幸編集局科学部長からそれぞれ挨拶があった後、下記の7氏に平成20年度日本農学賞ならびに第45回読売農学賞が授与された。授与式に引き続き、各受賞者が永年の優れた研究業績について講演された。引き続き、各受賞者をパネリストに、日本農学会副会長の大熊幹章氏がコーディネーターを、小出重幸読売新聞社科学部長がコメンテーターとなって、パネルディスカッション「農学の課題と展望2008」が催され、食の安全・安心を背景に各農水産関連分野のおかれている厳しい現況と昔ながらの普遍的な研究状況・環境についての厳しい課題等が活発に論じられた。大会後は受賞者を囲む祝賀会に移り、様々な農学分野の参加者間で活発な懇談・交流が行われた。本年度は本学会にとって幸いなことに、推薦母体は異なるものの、本学会名誉会員であられる生越 明氏（北海道大学名誉教授）、日比忠明氏（東京大学名誉教授、法政大学教授）の本学会会員が受賞の荣誉に浴されたことは御同慶の至りである。ここに、改めて両氏にお祝い申し上げたい。

## 本年度受賞者

- 1) 大谷 元氏（信州大学教授）「牛乳たんぱく質の免疫調節機能の探索と利用技術の開発」

- 2) 生越 明氏（北海道大学名誉教授）「リゾクトニア属菌の分類に関する研究」  
 3) 工藤俊章氏（長崎大学教授）「シロアリー微生物共生系とその効率の分解機構に関する先駆的研究」  
 4) 熊井英水氏（近畿大学教授）「クロマグロの完全養殖に関する研究」  
 5) 坂 志朗氏（京都大学教授）「超臨界流体技術によるバイオエネルギーの創製に関する研究」  
 6) 田中忠次氏（東京大学教授）「農業用施設に特有の構造安定性解析に適した数値解法の斬新な改良に関する研究」  
 7) 日比忠明氏（東京大学名誉教授）「植物プロトプラストの電気的細胞操作法の開発とその植物ウイルス研究への応用」

(寺岡 徹)

## 【学会ニュース編集委員コーナー】

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

Fax: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏, 寺岡 徹, 築尾嘉章, 竹内妙子, 笹谷孝英,  
各委員宛

## 編集後記

学会ニュース第42号をお送りします。本号では談話会や教育プログラム開催など学会活動の案内を中心に掲載させていただきました。また、報告事項としては日本農学大会の開催報告があり、本学会より生越 明氏及び日比忠明氏の2氏が農学賞を受賞されました。両先生の受賞を心からお祝いを申し上げたいと思います。学会活動ですが、感染生理談話会ははじめ本年度も活発な行事が目白押しで、皆さんに奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。さらに、ICPPははじめ国際学会も数多く開催されます。当学会の国際化に向けて活発な情報発信をお願いいたします。また、新たに5名の技術士誕生ということで、植物病害診断や「植物医師」育成など、植物病理学が実学として今後の展開に大きく貢献することが期待されます。なお、編集委員は次号から、石井英夫氏、小坂橋基夫氏に替わって、築尾嘉章氏、笹谷孝英氏が担当されます。(加来久敏)